



IoT・AIとネットワークワーキング



国際社会経済研究所 (NEC グループ) 主任研究員

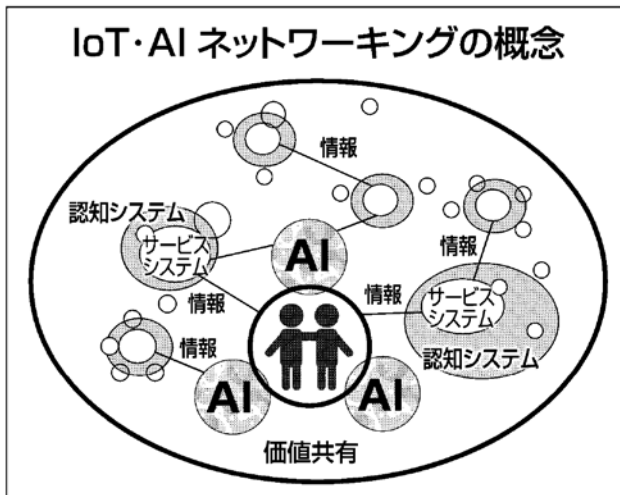
松永 続行



のコンピュータとは質の異なった基盤技術である。このIoTとAIが掛け算のように扱われるようになったことで、今までにない情報通信技術の可能性が広がっている。

表現する照明

一体化する新しいフェーズに入ろうとしている。高度に思考するコンピュータがつながる、IoT・AIネットワークワーキングが、新しい社会システムを構築する。



うな存在の明かりにない景情報を認知し、ヒトをか表現できる照明のように、あるいはヒトと機器となる。新しい概念の照明が次世代の都市に新しい形で配備される構想も生まれてくるだろう。IoT・AIネットワークワーキングの概念が広がれば、このように検討が照明機器だけではなく、多くの人工物に対して展開されることになる。

ヒトを超える

一方、このような情報技術の進化の中で、多くの仕事やサービスをAIが担うようになり、多くの人が失業するのではないかとの懸念がある。膨大な背

(金曜日に掲載)

新しい社会システム構築

今、先端技術を表す言葉にIoT・AIがある。3年ほど前までは、IoT(インターネット オブ シングス)という言葉が単独で使われていたが、ここにAI(人工知能)が加わり、二つの言葉がひとまとまりで考えられるようになった。IoTとは、情報通

信技術のひとつの節目に登場した言葉である。今までインターネットにつながっていないものが、IoT時代の見据えたネットワークは、さらに多様なものとなることが、考えることを、ひとつの仕組みの上で

検討が進んでいる。照明器具は、従来、電球や蛍光灯のようにスイッチで点灯や消灯をする機器であったが、神を認識することや予測することが可能になる。AIが担うようになり、多くの人が失業するのではないかとの懸念がある。膨大な背